

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係21 返還交渉前史（対米・対内）

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43734

沖繩加爾各答總商會

(回覧番号) 外務省電信案 (分類)

特種 (朱印)	極秘 (朱印)	略	第 1602 号	總第 39448 号	分第
極秘		42-9-12 17-36		42-9-12 17-36	
大至急 (至急)		普通	LTF	発電係	27

主 局 (部) 長 <u>ウ</u> 参 事 官 <u>カ</u> 課 長 <u>キ</u> 課 長 補 佐 <u>ク</u>	主管局署名 北米局北米課 起案: 昭和42年9月12日 起案者 電 話 番 号 板村 442
在 米 下 任 (大 使) 總領事 兼 代理 佐藤 大 臣 発 臨時代理	
電 報 在 米 總領事 兼 代理 臨時代理	
件名 沖繩問題等懇談会の模様	
1. 12日、沖繩問題等懇談会におかれ、文部 委員より、「沖繩返還と基地の取扱」に ついて「(1) 返還の時期 (2) 返還の 方法 (3) 基地の取扱」を提出し、(1) 返 還の時期 (2) 返還の方法 (3) 基地 の取扱の性格 (3) 基地の取扱と返還の 関係	

漢

写 済

12 57

係 (4) 施政権返還と基地の取扱の各項
目について説明した。 (5) 返還交渉の
開始の時期と (6) 施政権は準備期
間と見ると、1970年7月1日一任返
還するに目標に交渉する。 (7) 軍事基地は
防衛上の必要に基き、本土並みの基地
として目標とし、国際情勢の変化に
関連させ、台帳に移行する時の時間的見
通しについて協議する。 (8) 沖繩基地に
配置される核兵器については従来より
米軍の核兵器の撤去を求めている。 (9)
基地の撤去を求めている。 (10) 施政
権返還準備の
に、基地整理の段階を期して、日米
特別の合同協定を設け、を提示した。
2. 今後出席者の間、種々の意見交換が

(昭和42年9月12日)

直接交渉の不可~~は~~に~~つ~~いての意見の表明はなされた

行われた。この間、総理は「早期返還」として
「早期」とはいつからか、質問された。又、任官委員
座長も1970年までという意味である。この頃
は、この分野の競争も終結し、中央の情勢
も落ち着いて、米中関係も改善の兆しが見られる
ようになった。総理は、各報に答えて、
早く交渉が進展することを望む。また、
総理は、日本の安全に対する高懸念を示し、
この見地は、現状の現状である。沖縄の基
地のあり方にも、改善の努力を怠らざるを得ない
こと。世論は納得し、これらもまた、
台湾、韓国、在米日本企業、安全保障の観点から
利用する目的で特別の取扱いをするという
ことには、世論の支持は強くなるであろう。この
点もまた、
の趣旨を述べられた。

3. 懇談会今後の進め方(2)(1)米台米協
定比米協定の関係も含めて沖縄問題の
経路上の問題。(2)社会福祉関係の格差是正
(3)経済分野の問題等について述べられ
て、
要旨の要約が分社に報告されたこと。9月26日に
沈田は(1)について林委員が説明したこと
について、懇談会、総理訪米前の一歩の経
論を出した。10月4日、10月24日および11月
1日に会合が予定されている。

復帰後の沖縄防衛

防衛庁、近く検討始める 対空ミサイル充実など

防衛庁事務官は、沖縄返還に
対し世論の盛り上がり、この
解決のための作戦指針の詰めを
かえ、近く、復帰後の沖縄に

防衛庁としては、本土と同様
に、非核兵器による局地
戦以上の役割としては、自衛
隊がその防衛にあたるのが当然
で、同時に極東の安全と平和のた
めに果たす沖縄の役割も重
く、日米安保体制のもと、万全の
共同防衛態勢をとる一の手を
柱に、自衛隊の整備を進めてゆ
くべきである。
現在考えられている配備構想の
おもな点は次のようなものであ
る。

▽陸上自衛隊 現在の自衛隊
は、海上輸送能力が貧弱で、有事
の際、海路、本土から、搬送を
要するに困難なので、助舟を
兼用し、自衛隊の部隊を
中心とする一隊隊団長の部隊を
おく。少隊で、直接搬送す
る相手の第一線部隊を一気に配置
する必要があるため、R30型ロケ
ットなどの近代装備を配備する
。有事の際、自衛隊自衛隊に
よる西側航空機の使用などによ
り、本土から遠征部隊を派遣する
場があるとしても、その輸送能
力からみて、重兵器、弾薬は、事
前に沖縄に配備することが必要と
している。

▽海上自衛隊 日本側は、主
として護衛、ならびに沿岸防衛のた
めに若干の護衛艦、駆逐艦、魚雷
艇を配備する。

▽航空自衛隊 沖縄での航空
機は、新田原(高崎)の第五航空
団から緊急発進(スクランブル)に
対応する。これは効果的でないの
で、下田、一宮飛行隊(二十六
機)を配備し、航空団を新設する
。敵が所々のレーダー・サイトを保
有する。

▽地对空ミサイルの充実 現
在の機軸情報から見て、空から
の脅威が最も懸念されるので、対
空兵器の充実が第一である。ホ
ーク、ナイキ、パキ、リ
アット、空一大隊(四個中隊)を
分散配備することとし、F90双連
発射機を置く。米軍は、いま核
変ったナイキ・パキ、リ
アット、非核ホーク部隊を各二個大隊
配備しているが、本土では、ナイ
キ、ホークもすべて日本の手で
運用し、在日米軍基地もカバー
している。沖縄でも、これら
対空ミサイルはすべて自衛隊が受
け持つ。